

Lib

京都産業大学図書館報

v. 29, no. 1 (May 15, 2002)

ホームページに掲載中 <http://www/lib.kyoto-su.ac.jp/>

本学所蔵 賀茂葵祭行装ノ図より



知の源泉 を極めよう

図書館長 今井 薫

今日的な意味での「大学」 - それがポローニアの法学校やサレルノの医学校だとすれば - が誕生して、すでに800年以上が経過している。修道院では神学教育がすでに行われていたことを考えれば、現代に繋がる学問はこの時代までですべて姿を表したことになる。もちろん、これらの学問を成立させるため、方法論としての「哲学」がベースになったにしても、学問の動機は、やはり「心の悩み」、「体の悩み」そして「人間関係の悩み」という、人間の根幹に関わる問題の解決だったわけである。

しかし、考えてみれば、現代にいたっても人間はこのいずれの「悩み」をひとつとして解決してはいない。われわれが人間という「存在」である限り、自らの「あらゆる叡智」・「あらゆる手法」を駆使しようとも、その「存在」の根源に関わる「問い」からヒトを解放することは、残念ながらとても難しいようだ。確かに人間も、さまざまな学問的武器、また方法論的戦略を編み出してよく戦った。現在の多様化した学問は、この巨大な難敵に挑んだ「人間の軌跡」であるといっても過言でないであろう。

大学生になるということ。それはその個人が、この人間に突きつけられている根源的な難問にチャレンジ

する資格と義務を担うことである。人間一人のわずかな経験や感性のみに依存するには「敵」は限りなく巨大で、その秘密のベールのひとかけらすら奪うことはできない。ジェームズ・フレーザーは、その著書『金枝篇』(岩波文庫)の中で、「呪術は証明されない科学である」と喝破したが、われわれは呪術に惑う人間であってはならない。人生の1時期を大学におくるということは、つねにどこかで、人間存在に対するこの根源的な「問い」と結びついているということに自覚することでなければならないはずである。

幸いにも本学図書館には、百万タイトルに及ぶ、この《知の源泉》ともいべき分厚い「人間存在の履歴書」が蓄積されている。これらを糧に、未解答の「問い」に新しい論証可能な答えを準備するのは、この「問い」に触れ、そこに戦った人々に共感と、ささやかな敬意を払い得る、いま学生である諸君に他ならない。大学や大学図書館はこの「問い」に挑戦するためである。図書館のゲートはこの未知の迷宮の入り口なのだ。諸君の知的冒険の旅に、心から期待したい。

(いまい かおる 法学部教員)

知の源泉 を極めよう	今井 薫	1
京都産大図書館の「顔」	坂井 東洋男	2-3
-小川環樹文庫漢籍目録の完成を祝して-		
<連載> 自著を語る		
『鏡の中の愛』	杉本 明	
『生化学』	黒坂 光	
<情報の探し方>		
Lexis-Nexis Academic Universeの紹介		
いんぷおめーしょん		

『小川環樹文庫漢籍目録』の刊行にあたって

小川環樹先生は、京都大学教授を経られて昭和49年から本学外国語学部教授、その後国際言語科学研究所所長を歴任されました。『唐詩概説』などのすぐれた著作のほか『蘇東坡詩』『三国志演義』『史記』など翻訳も多く、その業績は、昭和時代の中国語学・中国文学研究の第一人者として高い評価を受けておられます。

当時の坂井図書館長のご尽力により、先生の所蔵された図書資料約9,000点を一括してお譲りいただいたものの、特に漢籍約2,300点を研究者の利用に供するための作業は膨大かつ困難を極め、着手以来6年の歳月を費やしてようやく目録冊子刊行の運びとなりました。目録データ作成のためには専門の方の知識をお借りしたものの、整理、修復など、また目録の刊行に係るデータ入力、漢籍特有の文字の処理など、これらに従事した職員、特に目録整理担当者の努力は多大なものでした。

今回のLib.には刊行を記念して、坂井元図書館長に寄稿をお願いしました。

また6月12日(水)、13時10分から、ご指導いただいた京都大学人文科学研究所附属漢字情報研究センターの高田時雄教授の記念講演会を開催させていただきます。ご参加をお待ちいたします。
(図書館次長)

京都産大図書館の「顔」

小川環樹文庫漢籍目録の完成を祝して

坂井 東洋男

小川環樹先生の没後、受業生はもとより、中国学を専攻する研究者の関心事は、漢籍を主とするその蔵書のゆくえであった。噂では、東西の幾つかの私学から照会があるものの、ご遺族の、喪に服している3年間はいじりたくない、というご意思により、没後2年を経た95年の初夏の段階でも、依然、行方が定まらぬようであった。受業生のひとりではあるが、それ以上に本学の図書館長として、私は、何としてでも先生の蔵書を譲り受けたい。大袈裟に聞こえようが、京都産大図書館長としての、それは使命であると考えていた。

先生の生前、80年代の初めに、語学関係の、そして、つづけて近代文学関係の蔵書を本学が譲り受けていた経緯もある。特に後者については、先生と縁の浅からぬ、京都のさる私学の関係者が譲渡を願い出られたにもかかわらず、お断りになっていた。約600余点。魯迅を初めとする近代作家の初版本を数多くふくんでいる。なかには、日本国内はもとより、中国本国でも戦乱を経て稀少になっているものがある。

断られたというのは、その私学の責任者から直接に伺った話である。本学がそれを譲り受けたのはその翌年のことであった。学科の図書委員として、そのいきさつを承知のうえをお願いしてみたところ、二つ返事で、ご快諾をいただけた。

これに漢籍をくわえないと、画竜点睛を欠こう。否、漢籍がもとより主体なれば、まず目があって、あとから龍を画こうというわけだ。で、思い切って、当時の柏理事長に、本学図書館の「顔」が欲しい、とお伺いを立ててみた。なぜ「顔」たりうるのか、幾つかの質問をされたうえで、ご遺族との交渉に入ることについて、その場で、賛意を表していただいた。1995年の初夏のことである。

その蔵書が何ゆえに本学図書館の「顔」たりうるのか。何よりも、碩学が体系的に、かつ、厳選されたも

のであること。これは折り紙付きである。そして、知るひとぞ知るが、識語やときに所感がしたためられている。書きこみである。20年ほど以前に譲り受けた近代の部で、それは実見済みであった。すでに本学の蔵書になる同一の本もあったが、小川先生のは書きこみがある点でまったく別のものなのである。あるとき他大学の研究者が魯迅の初版本を閲覧したいと見学された際、彼も口にしたのはそのことであった。本としては、これだけでも(と別の先生の旧蔵書を指さして)、小川先生の本を見たい、と。

先生は稀代の読書人、書を読む人であった。若かりし頃、京大の前任校である東北大学での助教授時代、給料の大半を本代にあてていらっやったようだ。主人は家では家庭のことなどいっさい顧みずに、いつも本を読んでいました、とは精子夫人の言である。書をあがなくても、つんどくだけの読書人は私をふくめて世にいくらでもいるが、買った本は一両日のうちには「閲了」されていた。凄まじいのは蔵書の量以上に、読書の質量である。

先生は大変に慎重なかたで、創見と思われるものも決して声高に口にされなかった。つねに、さりげなく語り、書かれているわけであるが、それも積極的に発言されることは少なかった。『小川環樹著作集』は全5巻。先生の業績から語学関係を除外しているとはいえ、必ずしも膨大な著作を残されたわけではない。が、語られざりし識見の一端は、その書き込みに窺えるはずである。

余談になるが、雑談がお好きで、しばしば、研究室を訪ねて見えた。1杯のコーヒーで、4、5時間もお話を伺うこともあった。「長い教壇生活でたいしたこと何もできなかったけどもねえ、ただ一つだけ誓っていえるのは、嘘だけはつかなかったことです。これは京大を定年退職された際に、新聞にも談話として

載っていたとおもう。また、いまだに赤面する思いであるが、授業の準備でどれくらい時間がかかるか、お尋ねになったことがある。当時、私は一介の講師。錚々たる大先生が居並ぶなかで、担当科目は2年生の語学が主体で、演習も、文学の講義科目も担当してはいない。事前に、ざっと目を通すだけだった時間はかからないと申しあげたところ、「そうですか、ぼくはグズでね、1週間のほとんどが授業の準備でつぶれて、困ってるんですよ。赤面し、かつ、肅然とする思いだった。日頃、その博識に驚嘆するばかり。肅然としたのは、本学での講義など、いわゆる手抜きで軽く流して十二分に用は足りているものとおもっていたからだ。教壇に立つ以上、発言にゆるぎなき根拠、おぼろげな記憶でしゃべってはいけない、という自戒を70歳を目前にしてもおもちだったということだろう。「確かにそうですか」は先生の口癖みたいなものだった。

産大での授業の話のついでにいえば、講義用のレジュメを手書きで準備し、覚束ない手つきで、ご自身で、コピーされているお姿を何度か拝見したことがある。京大では、教材としての該当頁のコピー以外に、レジュメはいただくことがまったくなかったと記憶する。閑話休題。

ご遺族との交渉では、文字通り、三顧の礼を尽くした。噂で伺っていたとおりで、喪に服しているの、あと1年はいじらない、とのことであった。が、この間の交渉の経緯については触れないが、夏休みを越え、師走に入ったある日、ご快諾をいただいた。翌年の2月2日、当時経理部長であった、駒井現理事長と小川家に赴いたその日は、雪が舞っていたが、私は寒さを覚えなかった。

搬出は3月6日。運送業者に館員もくわって総勢15、6人もいたであろうか。事前に梱包等の下準備はなされていたが、朝からとりかかった搬出が、昼食を挟んで夕刻まで、半日余を要した。

問題は、膨大な量にのぼる、線装本(系綴本)の漢籍の整理であった。館内には漢籍の専門家はいない。館外においても、おいそれと見つかるものではない。しかも膨大な量である。最終的に判明したところでは、帙数にして2000点、冊数では「小川文庫」として登録されたものだけで約1万であった。候補者探しで紆余曲折をへたが、当時、京大人文研の職員であった田中久子さんが、定年までに1年を余すのみであったのは、まことに僥倖であった。さらに、人文研のご理解も得て、その年の秋から、週に1度、アルバイトの名目で、助走していただくことにもなった。

以来、実質約5年間。田中さんには孤軍奮闘を賜った。お礼の言葉もない。名目上、教員6名からなる小川文庫整理委員会を組織したが、名目は名目、何の役にも立っていない。館員の手伝いも補助的なものに過ぎない。田中さんが独力で、整理を全うしてくださ

たのである。田中さんが奮闘してくださっていた5年間、私は、最初の1年間は館長であったものの、本学が2系統の大学図書館の全国組織の会長校を兼務したこともあって、忙殺されていたし、館長をしりぞくと同時に、この3月まで、4年間は、外国語学部長として、改革に追われていたので、陣中見舞いに何うことさえかなわなかった。譲り受けたあとは知らんふりで、まことに忸怩たるものがある。

田中さんの独力でと申したが、折に触れて助言や教示を惜しまれなかった先生が学外に何人かいらっしゃる。高田時雄教授をはじめとする人文研の先生方、井上進名古屋大学教授など。また、小川家との交渉では、中嶋長文、みどり両教授に、ときには同行を願うなど、側面から多大なご支援を願った。

本学図書館は、立派な目録とともに、小川文庫を「顔」にもちえたことを、誇りとしてよい。

(さかいとよお 外国語学部教員)

【小川 環樹(カワキタキ)先生の経歴】

〔専攻分野〕中国文学

〔生没年〕明治43年10月3日生、平成5年没(82歳)

〔学歴〕京都帝国大学支那文学科〔昭和7年〕卒

〔職歴・経歴〕東北帝大講師、助教授を経て、昭和23年教授、26年京都大学教授を歴任し、49年退官。京都大学名誉教授。昭和49年4月、京都産業大学外国語学部教授に採用。同55年4月、国際言語科学研究所所長を歴任し、56年3月に退職。

〔家族〕父=小川琢治(地理学者・故人) 兄=小川芳樹(冶金学者・故人) 貝塚茂樹(中国史学者・故人) 湯川秀樹(物理学者・故人)

【小川環樹先生の主な著作(本学所蔵)】

著・編著書

中国語学研究(東洋学叢書)

風と雲：中国文学論集

談往閑語

小川環樹著作集 全5巻

宋詩選(筑摩叢書74)

中国小説史の研究

唐詩選(世界文学全集6)/吉川幸次郎共編;今鷹真[ほか]訳

蘇軾(中国詩人選集二集5,6)/吉川幸次郎共編

蘇東坡詩集 全4巻 / 山本和義共編訳

訳書・その他

蘇東坡詩選(岩波文庫)/山本和義共選訳

三国志 完訳 全8巻(岩波文庫)/金田純一郎共訳

すでにオンライン目録化した「小川環樹文庫」の漢籍以外の図書資料は、EZ-CAT検索画面で「運用」コードを「X小川文庫」とすることで検索できます。

<情報の探し方>

Lexis-Nexis Academic Universe の紹介

平成13年4月から、Lexis-Nexis社の Academic Universeを導入しました。様々な分野の5,000以上の情報源から全文のテキスト情報（一部抄録のみ）を入手することができます。すでに導入しているEBSCOhostが雑誌記事中心であるのに対して、主要な新聞の記事全文、法学情報等を収録している点が特徴です。

次の5分野で構成されています。

- 1 .News：主要な雑誌や新聞の記事が収録され、英語以外にもフランス語、ドイツ語、イタリア語、スペイン語、オランダ語の新聞も収録。本学でも購読しているFinancial Times, Guardian, New York Times, Times and Sunday Timesなどの1980年代から全文記事を見ることができます。
- 2 .Business：ビジネスに特化した雑誌・新聞記事が収録されています。また、企業の財務状況や企業情報、商品情報、産業情報、M&Aにかんする情報、等が収録されています。
- 3 .Legal Research：米国連邦・州の法令や判例、EU法令、特許情報、law schoolのガイドなどの法律情報が収録されています。本学で導入しているlexis.comの法律に特化した高度な検索機能と比較して、Academic Universeは検索方法が初心者向けになっています。
- 4 .Medical：医療情報が収録されています。
- 5 .Reference：人物情報、国別情報、世論調査、世界年鑑等の情報が収録されています。

アクセス方法

図書館ホームページの「電子ジャーナル・新聞」にデータベースの一覧があり、「Lexis-Nexis Academic Universe」を選択します。

詳細な紹介、検索方法については同様に「電子ジャーナル・新聞」にある「Academic Universe factbook」をご利用ください。

検索方法

分野を選択し各検索画面に入る方法と、「Sources」タブを押して、特定の出版物に限定して検索する方法の2通りがあります。

検索画面ではキーワードの検索項目が固定の「Basic」と、検索項目が選択できる「Guided search」を選ぶことができます。

(図書館 電子情報係)

いんぷおめーしょん

6・7・8月の開館日の増加について

例年、定期試験1か月前から試験期間中は日曜日も開館していましたが、今年度は6月7日は全日、8月も14日(水)～17日(土)および日曜日を除き開館します。詳細は図書館ホームページで確認してください。

Hein-On-lineを5月から導入

米国の法学雑誌約150誌の創刊時からの全文記事に図書館ホームページからアクセスできます。

平成14年度図書館利用教育の実施について

ゼミクラス対象の文献探索ガイダンスを、クラス単位で受け付けています。内容は発表やレポートを書くために、ゼミのテーマに沿った文献探索法やCD-ROM・インターネット情報の検索実習などを行なっています。

新入生については、5月7日から約1か月間、「コンピュータ基礎実習」や「基礎情報処理実習」などの必修科目の情報教育授業のなかで、利用案内、文献・情報の探し方、地下書庫案内、オンライン目録EZ-CATの検索実習などを行います。

また、6月には、「レポート・論文のまとめ方」ビデオの上映と「雑誌記事索引」の検索実習を行なう予定です。実施のご案内は館内に掲示いたします。

なお、利用教育は春学期・秋学期の年間を通して実施していますので、詳細については参考係にお尋ねください。

図書分類法の変更について

これまで使用していた図書分類法を、現在の学問領域の細分化に合わせて、『日本十進分類法』7版から最新版の9版に変更しました。とくに大きな変更があったのは、コンピュータプログラミングの分類418.6が情報科学の007に変わった点です。新しい分類法は、オンライン目録コーナーに備えている『日本十進分類法』で確認してください。

館内の配置の変更について

2階の文学や文庫・新書コーナーの書架の増設にともない、利用の便を考慮し、館内の配置を以下のように変更しました。

- ・指定図書コーナーを3階から2階に移動
- ・教員文庫を地下書庫から2階に移動
- ・3階の分類番号400から600の図書の配置を変更
- ・資格試験コーナー書架の増加と傍にキャレル移設
- ・雑誌コーナー・メインカウンター前に座席を移設

発行 京都産業大学図書館

所在地 〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

電話 (075)705-1446